

東奥日報

2013年(平成25年)11月29日 金曜日 (12)

被災クロマツで作ったベンチ

災害公営住宅に設置

八工大生「記憶風化させず」

八戸

八戸工業大学の建築

デザイン研究会は21日、東日本大震災で津波をかぶり立ち枯れた



津波をかぶったクロマツを使って製作したベンチを設置する八戸工業大学建築デザイン研究会のメンバー

八戸市市川地区のクロマツを使って製作したベンチ2基を同市に贈り、同市多賀台の災害公営住宅敷地内に自分たちの手で設置した。この日は設置に先立ち、同研究会のほか、製作に協力した障害者支援事業所を運営する「ふれ愛プラザあおば」、下田塗装センターの関係者が市長室を訪れ、小林眞市長に目録を手渡し、感謝状を受け取った。

その後、同研究会の秋山由衣さん(八工大大学院1年)、仁平竜太さん(同大4年)、中里和貴さん(同)が多賀台の災害公営住宅敷地内にある集会所に

移動し、ベンチ2基を設置した。「震災を風化させたくない」との思いから、木の形や木目を最大限に生かしたデザイン。高さ30センチの2種類で、それぞれ3、4人が座れる。秋山さんら3人はベンチに座ったり、横になったりしながら仕上がり具合に満足そうな表情。秋山さんは「被災者の笑顔の輪の中に、このベンチがあらばうれしい」と話した。同研究会が、市内の災害公営住宅に贈ったベンチは計5基。白銀町雷(2基)は4月、白山台(1基)は9月に設置しており、被災者の憩いの場として利用されている。(山内はるみ)

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」